



Title	ノートルダム清心女子大学附属図書館特殊文庫蔵『和字正覧抄出』翻刻・影印
Author(s)	海藤, 侑里子
Citation	研究論集, 20, 1 (右) -16 (右)
Issue Date	2021-03-31
DOI	https://doi.org/10.14943/rjgshhs.20.r1
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/80796
Type	departmental bulletin paper
File Information	15_rjgshhs_20_001-016_r.pdf



ノートルダム清心女子大学附属図書館特殊文庫蔵 『和字正覽抄出』 翻刻・影印

海 藤 侑里子

はじめに

ノートルダム清心女子大学附属図書館特殊文庫に収められる『和字正濫抄出』は、契沖の著作である『和字正濫鈔』（主に、古代文献の仮名用法と一致しない定家仮名遣いの誤りを訂正するための仮名遣い書）から約三分の一の語句を抄出したものである。また「ゑ」の項目に「悦噓古言梯噓者大笑也あらきあらく」とあるように、『和字正濫鈔』の例証の不備を補うことを主眼として編まれた歴史的仮名遣い辞書である『古言梯』（明和元年（一七六四）成立）からの引用があるため、明和元年以降に編纂されたものと考えられる。

以上、本資料は、『和字正濫鈔』の利用実態の一端を示すものであり、そこには『古言梯』の影響も垣間見えるのである。近世期の辞書利用の一端を闡明するものとして、ここに『和字正覽抄出』の書誌及び翻刻を掲げる。なお、参考資料として巻末に影印も併せて付した。

書誌

所蔵先 ノートルダム清心女子大学附属図書館特殊文庫
書名 （外題）和字正覽抄出 （内題）和字正覽抄出
蔵書印 駒澤蔵書（一・オの右上にあり）
著者 未詳
作成時期 明和元年（一七六四）以降
刊写の別 写
冊数 一冊
装訂 こより装
丁数 十六丁
行数 八行（三段に分かれている）
寸法 縦二十一・三糎、横十四・〇糎

凡例

- 1 漢字は、原文のままとした。
- 2 踊り字、濁点、句読点はすべて原文のままとした。
- 3 丁移りは閉じカギ括弧()で示し、続けて括弧内に丁数を示した。
- 4 原文は八行三段で構成され、行間はないが、翻刻するにあたり便宜的に項目ごとに行間を空け、項目をゴシック体で記した。
- 5 注記は、割注の形で示した。
- 6 作字した漢字の下に、参考として久松潜一『契沖全集第十卷』(岩波書店、一九七三)に所収されている「和字正濫鈔」の翻字を付した。作字した漢字が『契沖全集第十卷』と同様の場合、作字した漢字の下に「(同)」と記した。
- 7 虫損等で不鮮明・不明瞭な箇所は角括弧(□)で示した。
- 8 漢字に対して付される仮名が複数ある場合は、一文字分空けて記した。
- 9 読みやすさに配慮して、中央に境界線を引いた。
- 10 巻末に別途資料として原本の画像を掲載した。

和字正覽抄出

いのかんな 中下のい文字

母いろは	弟いろと	兄いろね
岩いは	祝いはふ	嘶いはゆいなく
所謂いはゆる	古いにしへ	菴いはり
家いへ	犬いぬ	入いる
出いつ	鑄いる	忽諸いるかせ
魚いを 俗語也	漁子いをとり	筏いかた(一・オ)
至いたる	頂いたゝき	痛いたむ
抱いたぐうたぐ	磯いそ	闇(闇)いそかはし
急いそぐ	争いそふ	何時いつ
誰いつれ	稲いね	否いな
命いのち	祈いのる	生いく
弥いや	賤いやし	未いまた
坐います	云いふ	不知いさ
去来	漁いさり	徘徊いさよふ(一・
ウ)		
夢いめゆめ	石いし	妹いも
諍いさかふ	匍匐入はひいり	無本意ほいなし
老おい	於おいて	悔くい

右此中下のいおほくはきにかよへり太刀をはいて弓をひいてき

なときにかよふいは皆なすらへて知るへし

ゐのかんな 中下のゐ文字

猪ゐ	居 うとも ゐ	井ゐ
將ゐる	ひきゐる	田舎ゐなか
堰埭ゐせき	守宮ゐもり	雞冠花 かしあゐ
高陽院かやゐ	夜居僧よゐのそ	紅くれなる
位くらゐ	天雲くもゐ	参まゐる
詣まゐて	まうて	二處 (處) ふたゐ
基もとゐ	潮佐為しほさゐ	用もちゐ

ひ中下にありて音便のゐるとまがふかんな

入相いりあひ	飯いひ	餅もちひ
灰はひ	新にひ	小ちひさし (二・ウ)
禪ちひさきもの	繡ぬいもの	甥をひ
参差かたゝかひ	蜻火かけろひ	かけろふ貝かひ
鶏頭樹かひるてのき	肘かひな	卵かひこ
鎧かすかひ	鎧よろひ	宵よひ
結婚 (婚) よばひ 萬葉日本記	縦たどひ	互たかひ
手巾てのこひ	魂 (魂) たましひ	平たひら
傍そひ	使つかひ	愁なまじい
鶯うくひす	圀うまかひ	杙くひ (三・オ)
水鶏くひな	瀬生いはひ	炭 (峽) やまかい

山のあい也

を中下にあるを

病いまひ	舞まひ	篩ふるひ
儀ふなよそひ	無事言ことなしひ	鯉 (鯉) こひ
戀こひ	交あはひ	或あるひは
價あたひ	葵あふひ	間あひだ
相生あひおひ	按 古今集遠鏡序の注に相おひはおひし おわれしと言あり相違の字ならんか	侍さふらひ
近衛ゆけひのつかさ	境さかひ	稚しひ (三・ウ)
雜賀さひか	姪めひ	狂くるひ
強 (同) しひて	髻もとゆひ	
住すまひ 萬葉すむと同	相撲すまひ	
岑を	呼喚を	雄を
苧 (苧) を	緒を	尾を
小を	姨をは	終をはり
尾張をはり	前年をとゝし	踊をとり
少男をとこ	少女をとめ	伯父をぢ (四・オ)
老翁をち	彼此をちこち	時節をりふし
居をる	折をる	岡をか
拜をかむ	犯をかす	泳をよく
及をよひ	瀬をそ	をつ 萬葉に今のをつとよめり今 のうつとと現在をいへるにや
女をんな 万葉能馬楽をみなと いへりをうなとも	妾をんなめ	斧をの
戦をのゝく	男をとこ	童をぐな

桶をけ

奢をこり

白木をけし萬葉にうけら

經延をこがまし

怠をこたり

長をさ（四・ウ）

不賢をさなし

稚をさなし

治をさむ

兔（免）をさぎ東の俗語か

荻をさき

補をきのふ

置津をきつ

貫をきのふ

駕鴛をし

教をしへ

惜をしむ

折敷をしき

却をひやかす

十とを とを、萬葉たわゝとも

節折 はをり

薰かをる常にかはる也萬葉に香草
礼瀧とあるに源故に出ず

風流士 たはれを

婀娜たをやか

婦人 たをやめ

等（等）閑 なをさり

和やをら

丈夫 ますらを

青あを（五・オ）

滄溟あをうみばら

棹さを

竿さを萬葉佐保川に用たり
るはあやまりなり

牡鹿さをしか

漂漚 みをつくし

芝折 しをる

お中下のお文字

老 おひ

奥 おいそ

於 おいて

除 おいて

不覺 おろか

愚 おろか

輕易 おろか

風 おろし

卸 おろす

祖母 おば

檻 おはしま

御坐 おはします お

まします

兎（鬼） おに

臍 おほろ

祖父 おほぢ（五・ウ）

溺「おほる」

狼 お、かみ

几（凡） およそ

姒婦 おほよめ

人民 おほたから

鬱悒 おほつかなし

蘿蔔 おほね

参議 おほまつり

ことひと 覆 おほふ

覺 おほへ

多 おほし

思欲 おほし

仰 おほせ

音 おと

弟 おと、

劣 おとる

頷 おとがひ

長 おとな按長をさの假字おとな
の接長をさのおをいづれか

響 おとなひ

怖 おとす

下 おりいる

織 おる

妖言 およつれごと

爾 おれ（六・オ）

恐 おそる

襲 おそふ

落 おつ

遅 おそし

媚（媚） おづ

同 おなじ

叫 おらび おらぶ

鈍 おそし

驚馬 おそきうま

姫 おむま

陰（陰） 陽 おんやう

己 おのれ

自 おのつから

各 おのく

起 おく

置 おく

送 おくる

贈 おくる

後 おくる

晩稻 おくて

親 おや

追 おふ

生 おふ

負（負） おふ（六・

ウ）

發「おこる」

行 おこなひ

押 おさへ

熾 おき

翁 おきな

掟 おきて

忍海 おしのうみ

几 おしまつき

臨照 おしてる

帯 おひ

顔（顔） おもかけ

赴 おもむく

思 おもふ

面 おもて

表 おもて

重 おもし

瀛 おき

菊 かはらおはき

猶豫

堪 たへ	妙 たへ	譬 たとへ
苗 なへ	並 なへく	筌 うへ
上 うへ	表 うへ	打延 うちはへて
訴 うたへ	覆 くつかへる	屋遊 やのへのとけ
前 まへ	竟 をへ	意氣 こゝろばへ
者 てへり	敢 あへて	喘息 あへき
與 あたへる	剩 あまつさへ	囀 さへつる
道祖神 さへのかみ	徃(往)方 ゆくへ	教をしへ」(十・オ)
後 しりへ	偏 ひとへ	單 ひとへ

中下のわ

乾(乾) かわく	腸 はらわた	曲 わ
俵 たわら	撓 たわむ	手弱女 たわやめ
烏芋 くわゐ	理 ことわり	沫 あわ _{和名}
騒 さわかし	皴 しわ	居 すわる

中下のは

岩 いは	祝 いはふ	庭 には」(十・ウ)
鶏 にはとり	俄 にはか	潦 にはたつみ
膠 にかは	蓐 ぬなは	終 をはり
尾張 をはり	童 わらは	禍 わさはひ
皮 かは	替 かはる	瓦 かはら
土器(同) かはらけ	廁 かはや	裘 かはころも

傍 かたはら	柏 かしは	夜 よは
齡 よはひ	風流士 たはれを	遊女 たはれめ
戯 たはふれ	蓄 たくはふ	咀 そは」(十一・オ)
兵 つはもの	啜 なはて	縄 なは
苗代 なはしろ	上國 うはつくに	上天 うはのそら
團扇 うちは	麗 うるはし	器(同) うつはもの
欽 くは	企 くはたて	委 くはし
關草 くさあはせ	柔 やはらか	廻 まはる
氣 けはひ	不破 ふは	栗 あは
沫 あは	周章 あはたし	鰈 あはひ
交 あはひ	裕 あはせ	顯 あらはる」(十一・

ウ)

多 さは	澤 さは	障 さはり
早良 さはら	痕 きは	際 きは
黄檗 きはだ	究 きはむ	汀 みきは
十二月 しはす	琵琶 ひは	諏方 すは

河川 かは かは

中下のう

痛 いたう _{くをやはらけてい み例しておなし}	時世 いまよう	夫 をうと
われもかう	馨 かうはし	冠 かうふり」(十二・
オ)		
格 かうし	仕奉 つかうまつる	植 う、

漸 やうく

客 まろうと

詣 まうて

申 まうす(まう)し

紅梅

手水 てうつう通

草子 さうし

舅 しうと

姑 しうとめ

兄 せうと

消息 せうそこ

居 すうすゆる通

中下のふ

言 いふ

生 にふ

祝部 はふり

訪 とふらふ

遠江 とほく

あふみ とほとふみ 溢 は

ふる(十二・ウ)

蜻蛉 かけろふ

倒 たふる

狂心 たふれこゝろ

添上 そふのかみ

睡 ねふる

閏月 うるふつき

今日 けふ

拐 あふこ

伺 さふらふ

むにまかふふ

傾 かたふく

悲 かなしふ

樂 たのしふ

眠 ねふる

苦 くるしふ

戯 たはふれ

浮 うかふ

撰 ゑらふ

みにかよふひ(十三・オ)

辞 いなひ

悲 かなしひ

樂 たのしひ

浮 うかひ

欣樂 うれしひ

撰 ゑらひ

中下に濁るし

爐 はし

虹 にし

彈 はしく

初 はしめ

躑躅 つゝし

旋毛 つむし

辻 つし

詰 なしる

貉 むしな

頂 うなし

同 おなし

交 ましはる

禁 ましなふ

不盡 ふし

短 みしかし(十三・

ウ)

羊 ひつし

中下に濁るつ

鱗 いろくす

出 いつ

何 いつれ

泉 いつみ

耻(恥) はつかし

煩 わつらふ

尋 たつぬ

薺 なつな

鯰(鯰) なます

埋 うつむ

蹲 うつくまる

太秦 うつまさ

屑 くつ

崩 くつる

先 まつ

貧 まつし

削 けつる

水 みつ(十四・オ)

東 あつま

梓 あつさ

授 さつく

練 きつな

譲 ゆつる

感 めつ

希見 めつらし

瑞 みつ

倭文 しづ

賤 しつ

静 しつか

沈(沈) しつむ

滴 しつく

蹄 ひつめ

水雲 もつく

中下に濁るす

必 かならず

数 かす

鼠 ねすみ

渦 うす

雲聚 うす

葛(葛) くす」(十四・

ウ)

簀(菰) やはす

疵 きす

蚯蚓 みゝす

鵲 もす

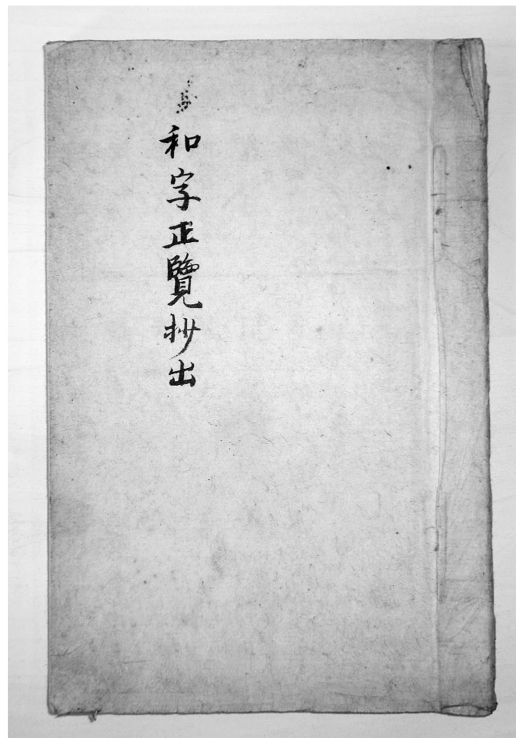
(かいどう ゆりこ・人文学専攻)

謝辞

資料の利用にあたり、ご高配を賜りましたノートルダム清心女子大学附属図書館に感謝いたします。本研究は北海道大学大学院文学院「共生の人文学」プロジェクトの助成を受けたものであり、令和二年度北海道大学国語国文学会で発表した成果です。

別途資料『和字正覧抄出』

◀表表紙



和字正覽抄出
 いのかんを 中下れの文字
 母 いちへ
 岩 いは
 所謂 いふ
 家 いへ
 出 いっ
 魚 いを 俗語
 弟 いちへ
 祝 いふ
 古 いふ
 わ いぬ
 鑄 いち
 漁 いを
 兄 いちへ
 嘶 いちへ
 菴 いちへ
 入 いちへ
 忽 諸 いちへ
 待 いちへ

至 いちへ
 抱 いちへ
 急 いちへ
 誰 いちへ
 命 いちへ
 弥 いや
 坐 いちへ
 去 来
 頂 いちへ
 磯 いちへ
 争 いちへ
 稻 いちへ
 祈 いちへ
 賤 いちへ
 云 いちへ
 漁 いちへ
 痛 いちへ
 閑 いちへ
 何時 いちへ
 否 いちへ
 出 いちへ
 未 いちへ
 不知 いちへ
 徘徊 いちへ
 夢 いちへ
 石 いちへ
 妹 いちへ
 靜 いちへ
 匍匐入 いちへ
 於 いちへ
 悔 いちへ
 右に中下のいたはふがうりたカをはびくるといふ
 万ふがうりたカをはびくるといふ
 わのかんを 中下のお文字
 猪 お
 居 お
 田舎 お
 井 お
 院 お

◀二・ウ、三・オ

堰埭 おき	守宮 おもう	鶯野花 かゐ
高陽院 かやう	夜居僧 よゐり	紅 くさか
位 くゝ	天雲 てんぐん	冬 ふゆ
諸 もろ	二處 ふたところ	用 もち
基 もと	潮佐 うしほ	
し中下 しちゅうか へりく へりく へりく へりく の の お お へりく へりく かん かん		
入相 いりあひ	飯 いひ	餅 もち
灰 はい	新 あら	小 ちひ
禪 ぜん	繡 ぬい	甥 おとこ
冬差 ふゆさ	晴大 はるひろ	貝 かい
鶯野花 かゐ	肘 かひ	卵 たまご
縫 ぬい	鑑 かん	宵 よ
結婚 けっこん	縦 たて	互 たがひ
中 ちゅう	魂 たましい	平 へい
仿 たふ	使 つか	愁 おもひ
常 じょう	圍 かこ	代 かへ

◀三・ウ、四・オ

水鶏 すゐけい	滿生 まんせい	炭 すみ
病 いみ	舞 まひ	飾 かざり
穢 けがれ	無事言 むじご	鯉 こい
戀 こひ	文 ぶん	或 ある
價 あたい	葵 あひ	間 ま
相生 あひたひ	按古今集遠鏡序 あてこゝろ	侍 さむらい
近衛 ちかゑ	境 さかい	推 おし
雜 ざ	娘 むすめ	
強 つよ	髻 むすこ	柱 はしら
住 すま	相撲 すまひ	
を中下 しちゅうか	呼喚 よびかゝり	椎 すい
岑 さん	緒 お	尾 お
草 くさ	媛 ひめ	終 はつ
小 こ	前年 ぜんねん	踊 おど
尾張 おわり	少女 しょうじょ	伯父 おや
少男 しょうなん		

◀四・ウ、五・オ

老翁 をらう	彼此 をちち	時節 ときふし
居 を	折 を	岡 を
拜 を	把 を	泳 を
及 を	懶 を	を を
女 を	妻 を	芥 を
戦 を	男 を	童 を
桶 を	奢 を	白木 を
經 を	怠 を	長 を
不 を	種 を	活 を
免 を	萩 を	補 を
置津 を	賞 を	譽考 を
教 を	惜 を	折敷 を
劫 を	十 を	節折 を
薰 を	婦人 を	風流士 を
婀娜 を	丈夫 を	等閑 を
和 を		青 を

◀五・ウ、六・オ

滄溟 を	掉 を	竿 を
牡鹿 を	漂櫓 を	芝拵 を
た中下の文字		
老 を	奥 を	於 を
除 を	不覺 を	愚 を
輕易 を	氣 を	却 を
祖母 を	檻 を	御坐 を
鬼 を	膨 を	祖父 を
溺 を	根 を	冗 を
娼婦 を	人民 を	聲 を
蘿蔔 を	太議 を	覆 を
豐 を	多 を	思 を
仰 を	音 を	芽 を
劣 を	領 を	長 を
響 を	怖 を	下 を
織 を	妖言 を	雨 を

六・ウ、七・オ

[illegible]

◀七・ウ、八・オ

質	すなは	巖	いそは	畠	いは
庵	いはり	憤	いそはり	勢	いそは
旬	にはふ	通	とほろ	遠	とほし
調	それは	律	とこころ	顔	かは
猶	やは	直入	おほり	潤	うるはう
潮	うしほ	氷	こほり	競	さけふ
操	みな	塩	あは	催	もよほ
柄	え	舌	は	得	は
荏	に	胞	は	纓	えい
縁	えに	烏帽子	えほし	鎖	えり
枝	えだ	役	えたり	夷	えき
悦	えに	えがぬ		撰	えの
燕	えむ	愁	えむ	覆	えの
兄	え	長子	えこ	蒲萄	えひ
鯢	えひ	房	えひ	昆布	えひ

◀八・ウ、九・オ

嘶 いしえ	愈 いえ	宴 えむ
美 はえ	煮 にえ	吠 ほえ
鷄 めえ	儻 とえ	費 つえ
潰 つえ	轅 ちえ	笛 ふえ
吮 ひえ	裁 こえ	肥 こえ
泣 さえ	甲 さえ	消 きえ
薜 ひえ	冷 ひえ	萌 もえ
燃 もえ		

解 え	會 え	詠 えい
犬 ぬえ	笑 あはれ	嘆 なげ
悦 え	圓 まる	惠 え
醉 え	礎 いし	華 は
吾 われ	机 つく	杖 つゑ
稍 さう	殖 うゑ	飢 うゑ
聲 こゑ	故 うゑ	末 すゑ

◀九・ウ、十・オ

居 すゑ	陶 すゑ	
古 ふる	家 いえ	牲 いけな
蠅 は	膚 は	拔 は
重 おも	囚 こ	銘 めい
樵 か	賽 さい	歸 かへ
蛙 か	笑 わら	銘 めい
傍 か	金 かね	蘇 そ

堪 た	妙 た	譬 たと
苗 め	並 なら	答 こた
上 う	表 う	お世 う
新 あら	覆 ふ	屋 や
前 まへ	竟 は	意 い
者 もの	敢 う	喘 う
與 とも	刺 さ	轉 まわ
道祖神 みくも	往方 ゆく	教 しる

◀十・ウ、十一・オ

後 あうへ	偏 ひこ	單 いこ
中下の口	腸 はう	曲 ま
乾 か	撓 たむ	手弱女 たより
俵 た	理 こ	沫 あ
烏芽 くさ	皺 し	居 す
駭 さ	中下れは	庭 に
岩 い	祝 いは	
鶏 お	俄 お	濼 お
膠 お	尊 ぬ	終 を
尾張 お	童 こ	禍 ま
皮 か	替 か	瓦 か
土器 ち	廁 か	表 お
傍 か	柏 か	夜 よ
鈴 す	風流士 た	遊女 あ
戲 た	著 し	岨 し

◀十一・ウ、十二・オ

兵 つ	暇 か	儘 な
苗代 か	上國 う	上天 う
團扇 う	麗 う	器 う
鉄 く	企 く	委 あ
閑草 あ	柔 あ	廻 ま
氣 け	不破 あ	栗 あ
沫 あ	周章 あ	鰻 あ
交 あ	裕 あ	顯 あ
多 た	澤 た	障 た
早良 さ	痕 さ	際 さ
黄檗 き	究 き	汀 き
三月 さ	琵琶 ひ	級方 す
河川 か	中下の口	
痛 い	時世 い	文 あ
月 め	馨 か	冠 か

◀十四・ウ、十五・オ

東	あき	梓	あき	授	あき
縁	まづ	譲	ゆる	威	あき
希見	あき	瑞	みづ	倭文	あき
賤	あき	静	あき	沈	あき
滴	あき	蹄	あき	水雲	あき
中	あき	濁	あき		
必	あき	数	あき	鼠	あき
濁	あき	雲聚	あき	葛	あき
落	あき	疵	あき	蛭	あき
賜	あき				

◀裏表紙

